



KAMAISHI

News Letter

いざな
ー釜石への誘いー

釜石ラグビー2019応援プロジェクト

首都大学東京ボランティアセンター

初めて出会う

岩手県 釜石市

— IWATE KAMAISHI —

— 岩手県沿岸の南部に位置する釜石市

東京から少し離れたこの場所は

「鉄と魚とラグビーのまち」

と呼ばれている

自然の豊かさを五感で感じながら

時に震災や復興に触れながら

わたしは釜石を歩いた —

アクセス

東京

東北新幹線

約3時間

新花巻

JR釜石線

快速で
約1時間半

釜石



絶対に行きたい

釜石を知れる場所

光り輝く海



鮮度抜群の魚介類

釜石漁火酒場 かまりば 京花



釜石とラグビーと…

ー ラグビーワールドカップ2019日本大会の
開催都市の1つである釜石

新設された「釜石鵜住居復興スタジアム」は
海と森に囲まれている

陽の光が芝に反射しきらきらと輝く

美しいスタジアムの姿をわたしは忘れられない ー

ラグビーワールドカップ
釜石会場の試合日

9/25(Wed) フィジー VS ウルグアイ
10/13(Sun) ナミビア VS カナダ

釜石鵜住居復興スタジアム



復興のシンボルとして

震災で被害を受けた
旧鵜住居小学校と
釜石東中学校の跡地に建設された

釜石の海を見守る 釜石大観音



震災の教訓を伝える
いのちをつなぐ未来館



釜石から考える わたしたちのこと

わたしたちは今、逃げられるのか？

1

向かうべき「避難場所」をわたしたちは把握できているだろうか
一定期間の避難生活を送る場所である「避難所」と
「避難場所」という言葉の区別さえつかないかもしれない
ハザードマップを超えた被害があったことを釜石は教えてくれた
完全な安全はない中で、わたしたちは生き延びるための
知識を今、持っているだろうか

2

大学生が動く、地域とつながる防災

大学生の4年間、同じ地域で過ごしていても
ただ暮らしているだけ、地域への関心は薄いのではないだろうか
しかし、大学生の間に震災が起こらないとは限らない
震災が起きた時、わたしたち大学生には何ができるのか
その地域を作る一人の存在として、暮らしている地域の防災を
一緒に考えていきたい

3

あなたにとっての3.11

『いのちをつなぐ未来館』で菊池のどかさんのこの言葉を聞いて
わたしの目から自然と涙が溢れた
「私は被害が軽かったから、すぐに避難所の手伝いをした」
3.11の記憶は関東に住んでいたわたしにもはっきりとある
状況は理解できるが、被害が軽い、重いということへの違和感
そこからくる罪悪感、孤独感を感じる言葉だった
どこに住んでいても、どう過ごしていてもあの日は誰にとっても
忘れられない日なのではないだろうか
あなたはあの日どこでなにをしていましたか

問い合わせ先

首都大学東京ボランティアセンター
(南大沢キャンパス 1号館1階)
TEL&FAX 042-677-1354
E-mail : tmu-volunteer@jmj.tmu.ac.jp